

2022年度 日本老年看護学会 生涯学習支援研修
実践編『ELNEC-J 高齢者カリキュラム看護師教育プログラム』アンケート集計結果

開催日時:2022年11月26日(土)～11月27日(日)

開催場所:オンライン

【属性】

参加者:18名 *以下、受講者16名回答(回答率88.9%)

性別:女性16名

年齢:20歳代2名、30歳代2名、40歳代8名、50歳代3名、60歳代1名

職種:看護師17名、保健師・助産師1名

所属:一般病床4名、教育研究機関2名、療養病床2名、外来2名、訪問看護ステーション1名、地域包括ケア病棟1名、管理部門1名、看護部1名、医療連携室1名、クリニック1名

職位:スタッフ9名、主任・副師長3名、師長4名

看護職としての経験年数:5年未満1名、5～10年未満1名、10～20年未満4名、20年以上10名

高齢者ケアに携わった経験年数:5年未満2名、5～10年未満2名、10～20年未満6名、20年以上6名

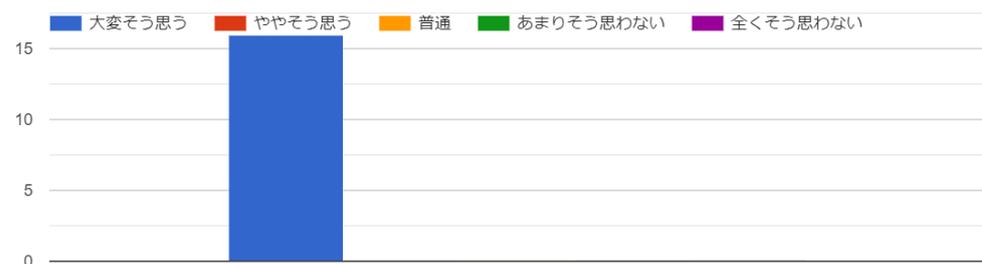
資格:専門看護師2名、認定看護師6名

認定後の経験年数:1～5年5名、5～10年2名

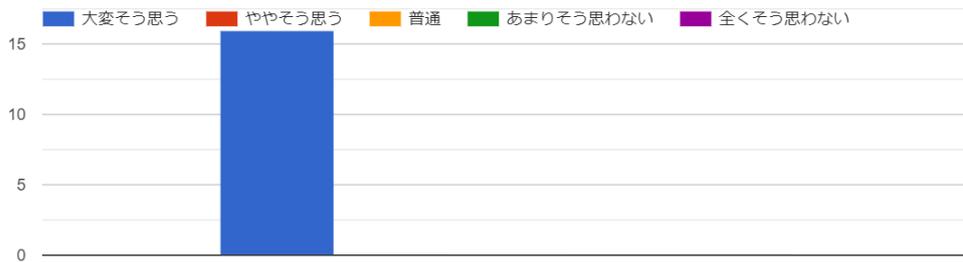
・本プログラムの内容は、あなたの期待をどの程度満たしましたか



・本プログラムを受講して、高齢者のエンドオブライフケアの重要性について理解が深まりましたか



- ・本プログラムの内容をあなたの職場で活用していきたいと思いませんか



- ・プログラム全体や配布資料についてなど、ご意見・ご感想を聞かせください。

【研修全体】

- ・ この研修を受けるに当たって、自分は看護師としての臨床経験が浅く少し浮いた存在になるのではないかと、講義の内容が理解できるのかと少し不安でした。しかし、講師の方々の明るい話に励まされ、無事に終了することが出来ました。また、講義内容も普段業務に追われがちな傾向にある中で、自分自身の見直しや新たな気づきができたので、この講義を受講できたことに感謝しています。
- ・ 高齢者とのかかわりについて改めて考えることができ、明日から実践に活かせる内容でした。現在院内全体で身体拘束削減に向けて取り組んでいますが、少し気を抜くとあっという間に増えてしまいます。このような研修で身体拘束を減らすだけが目的ではなく、もっと高齢者や認知症のある方をよく知ることを学ぶことが必要だと思いました。部署のスタッフにも勧めたい研修です。
- ・ 今回の研修では新たな学びや発見がたくさん得られました。講師陣の皆様の豊富な経験をもとに丁寧に解説頂き、非常に勉強になりました。高齢者ケアに携わる上でのマインド、軸をたくさん教えて頂きました。それを忘れずに頑張っていきたいです。ロールプレイやグループワークでも、皆さんのお考えをきくことができ非常に勉強になりました。
- ・ 緩和ケアの ELNEC-J にしか参加したことがありませんでした。高齢者カリキュラムを知らなかった自分が恥ずかしいくらい、早く受けておけばよかったととても思いました。明日からの実践に活かせる本当に貴重なプログラムでした。モヤモヤも日々のケアや感じていることも指導者の方に言語化していただいたことも、実践に活かすことができます。
- ・ コロナ禍でオンライン受講など企画、研修の開催をして頂いたことで、自己内省の機会となり、新たな気持ちでケアに取り組んでいかなければという決意を持つ機会となれたと思います。
- ・ コアにはない、高齢者の特徴を学べた。指導者も目指したいと思えました。
- ・ 念願だったこの講義を受講することができ、とても嬉しく思っています。また、EOL の方やご家族の方へのケアだけではなく、自分自身の振り返りにもなりました。地域・在宅領域の看護に携わっており、独居で孤独死していく方も多いと感じています。今後、地域の方々への関わりにもつなげていきたいと思っています。
- ・ 高齢者の特徴やケアの具体的な方法を学べたことをはじめ、グループワークやロールプレイ

でお互いの意見を出し合い学びを共有できたことが良かったです。認知症の症状がある方に対して、わからないかもしれないと決め付けるのではなく、まずはその方の意思を確認したり、話しかけること、反応を感じる事が重要であると改めて気づきました。大事なことをたくさん学んだので、何度もテキストを読み返して今後の実践に活かしたいと思います。

- エルネック JCC の運営に携わる機会をいただいたのをきっかけに、クリティカルと高齢者の違いを理解しておきたいなあと思い、今回受講いたしました。クリティカルはエビデンスに沿って進んでいて知識向上といった印象ですが、高齢者の方は実践知で構築されており、どう感じるか、どう想像するか、微弱なサインにどうやって気づくかセンスを高めるといった感覚を磨くといったところが違うなあと思いました。参考文献が日本の文献が多く読めそうなので、見て知識を確認していこうと思えました。喪失への理解に老いや老化が組み込まれており、これを若年層の臨床家の自分たちが想像し理解するためには、傾聴、共感、寄り添いが必要であるが、その実践方法の具体について、明記されていたので、高齢者の視点で EOL に関わる方法が具体的になり、明日から活用できると思いました。折り梅さんの DVT を見たとき、生活の細かいところまで見えている自分を自覚することができ、2 日間でも自分の視点が変わったと思えました。グループワークで一緒に話した皆様の視点や意見が的確で、自分もこういう視点を持ちたいな、落ち着いて話せるようになりたいな、建設的に話ができるようになりたいなと学びもありました。貴重な出会いでした、これからもずっと心にのこるのではと思いました。
- 今後も病棟職員を順番に研修に参加させたいと思っています。グループワークがあり、ロールプレイがあるため参加を悩みましたが、参加して本当に良かったと思っています。
- 高齢者で放射線治療を受けられる方と関わることもあり、セルフケア支援を行う際に生活者としての患者さんの理解が必要と考えています。意思決定支援、安全に治療を継続することを支援するときに、今回の研修の経験を生かしていきたいです。看護師一人ひとりが役割を意識し、高齢者を擁護していける組織となるように、所属部署に広めていきたいです。
- 自分がなんとなく大切にしてきた部分が今回の講義を聞いて、間違っていなかったんだと確認できた部分と、全く気がついていない部分(自分の考えの傾向やコミュニケーション時の態度)に気がつきました。また本人の価値や思いを知るという部分を日頃やや軽視しているように振り返ることができました。本人の事を知ろうとする実践と、うまくいかないことを誰かのせいにしなくて、まずは自分にできることを模索していきたいと考えます。対面講義が再開されたらまた受講したいと考えています。

【時間】

- 貴重な講義ありがとうございました！ 3 日間にかけて半日だけの日もあると 後半の集中力の向上ができそうでした！
- 事例など、もう少し時間があればいいなと思える研修でした。